2017.12.8 千歳民報

支笏湖日記

三角屋根の支笏湖ＹＨ

半世紀以上の歴史刻む

支笏湖の日本一といえば「9年連続水質日本一」を思い浮かべますが、日本で第1号のものが支笏湖にあることをご存じですか。それは1955年7月に日本ユースホステル協会（ＪＨ）直営第1号として開業した支笏湖ユースホステル（ＹＨ）です。開業当時の建物は、支笏湖小学校の旧校舎を急ごしらえで改造したもので、建物の傾きを防ぐためのつっかえ棒が何本もあったという記録が残っています。

日本ＪＨＹ協会が設立されたのは51年とのこと、当時欧米諸国で盛んになったユースホステル運動が日本にも伝わり、この頃から全国各地に広まりました。道内でも支笏湖ＹＨ開業の頃から各地に誕生し、定員300人を超える大規模な所もありました。また温泉旅館をＹＨに指定した時期があり、丸駒温泉も指定されていたそうです。

資料を見ると、ＹＨの隆盛期は66〜75年、この頃は全道で年間延べ80万人の宿泊客があり、支笏湖ＹＨでも2万人以上が利用していました。支笏湖ＹＨだけでは収容し切れず、今はやりの民泊も行われていたそうです。思えば私が20代前半の頃、リュックサックを背負い旅行に出掛けた時にもＹＨを利用したものです。ペアレントのオリエンテーションの後、トイレ掃除の当番になったり、同室になった学生と自転車で観光名所を巡ったりした記憶があります。時はまさに70年代前半、多くの若者はこんな旅をしていた時代でした。

支笏湖ＹＨの開業から5年を経た60年、新しい支笏湖ＹＨが完成しています。今も支笏湖に立つ建物は北方建築の第一人者として知られる田上義也氏（後に北海道ＹＨ協会会長）の設計によるもので、雪国を意識した大きな三角屋根が特徴です。当時は子どもたちが屋根から落ちて積もった雪の上にのぼり、滑り台にして遊んでいたそうです。その頃から半世紀以上の時を刻み、今では周囲の景観に融け込み、支笏湖のシンボルの一つになっています。

今も支笏湖にある田上氏が設計した支笏湖ユースホステル

（自然公園財団支笏湖支部所長・木下宏）